



季節を知ったら  
暮らしが楽しくなった

〜第二七八号〜

小暑

七月七日

## 引張肴

梅雨の最中に、雨雲を打ち払うかのような晴れ間を「梅雨晴」、「梅雨晴間」と呼びます。伊勢神宮の別宮・伊雑宮の御田植式は、この梅雨晴に恵まれました。

毎年六月二十四日に行われる御田植式は、「磯部の御神田」として国の重要無形民俗文化財に指定されています。何度か取材してきましたが、今回は中休みの酒宴に出されるといふ若布に注目していました。「引張肴」と呼ばれ、お酒の肴にするというものです。

お祭りが始まってすぐに一口大の若布が出されました。御田植の前に行われる竹取神事に奉仕する裸男たちが、神田に入る際、お神酒とともに若布を渡されていたのです。役員に尋ねると、「干した塩若布で、酒の肴にする」と教えてくれました。竹取神事の途中の休みでもお神酒と若布が配られていました。これが「引張肴」です。

そして、早苗を手植えする御田植の中休みになると、田道人や早乙女、囃子方にお神酒と若布が配られました。太鼓打ちや筋すりの少年たちもお神酒の代わりの清涼飲料水と若布を食べていました。酒宴といっても田の中に向かいあって立ち並ぶというものです。

この若布を湯茶接待所で私もいただきました。塩昆布のような味で、暑い中、若布の塩気が身体に効きます。ちょうど良い摘み物です。ところで、「引張肴」の引張はどんな意味なのでしょう。地元の方に尋ねてもわかりませんでした。ただ、「磯部の御神田」では、この若布が随所で出され、まさしく引っ張りだこでした。多くの人が求める酒肴という意味なのかもしれません。

伊雑宮は一日中、お参りの人々で賑わっていました。

文 千種清美



# おかげの里便り

おかげ横丁

## ○ みそか寄席

「みそか寄席」は、毎月の末日の「みそか」に合わせて開いている落語会。  
平成3年6月より27年間毎月欠かさず公演し、地元松阪出身の桂文我  
師匠を中心に、中堅・若手の噺家が多数出演しています。  
7月は毎年恒例の林家正雀さんをお迎えして、今回は人情噺を披露し  
ていただきます。

と き／7月31日(火) 一部19:00～、二部21:30～  
ところ／おかげ横丁「すし久」  
木戸銭／前売券1,800円、当日券2,200円

一部

じゅっ とく

十徳

林家愛染

せん りょう

千両みかん

桂文我

めい げつ わか まつ じょう

名月若松城

林家正雀

二部

たぬき こい  
狸の鯉

林家愛染

ちゃ わん  
はてなの茶碗

桂文我

しば はま

芝浜

林家正雀

五十鈴塾

## ○ 伊勢の真夏のお水汲み

土用とは立春、立夏、立秋、立冬の前の18日間をいい、それぞれに  
季節が定まる前の不安定な時期です。その中でもよく知られているのは  
夏の土用、ことさらに暑いので、農家でも町中でも体調管理の意味も  
あって、日を定めて骨休めをしました。伊勢では土用の丑の日と8月1日  
の八朔に伊勢神宮を流れる五十鈴川の水を汲んで瀧祭の神に捧げた  
後に、神棚に供えると無病息災で過ごせるという習わしがあります。今  
年も皆さんで出かけてお水を汲みにいきましょう。

お参りが終わった後は塾で土用餅と暑気あたりを防ぐ枇杷葉湯を  
いただきます。

と き／7月20日(金) 9:00～12:30

講 師／佐熊 実 (伊勢の語り部)・事務局

参加料／一般1,600円 会員1,100円 (土用餅・枇杷葉湯付き)

ところ／内宮・五十鈴塾右王舎

※お問い合わせ・お申込み 0596-20-8251

五十鈴茶屋

## ○ 節気菓子

みずぼ たん

水牡丹

牡丹色に染めた梅の甘露煮を、葛寒天で包みました。  
水ぎわから、涼しい夕べの風が吹き込むかのようです。

ほおずき

暑さがつのと同時に、赤みを深める、ほおずき。  
ういろ  
外郎生地で黄味餡を包み、ほおずきの実に見立てました。

み す  
御簾

緑に色付けした餡で粒餡を包み、琥珀羹で巻いたお菓子。  
目にも涼しく、夏の暮らしへの想いを表すひと品です。